

FIFAによる ルールブック第11条(オフサイド) 解説用CGの和訳

<http://www.fifa.com/flash/lotg/football/en/flash/start.html>

を再生しながらご覧ください。

※個人的に翻訳したものですので、確からしさをお約束するものではありません。

ページ	シーン	表示 /音声	表示されている文章もしくは再生される音声の和訳
		表示	最初にインターネットの通信環境を選択します。 1メガバイト/秒以下はADSLを、それ以上はBROADBANDを選択します。
1		表示 & 音声	第11条は17条のうちでもっとも短い条文ですが、最も複雑で、意見の分かれる条文として受け取られています。実際にはそうではなく、第11条は1-2-3くらいに分かりやすいものです。
2		音声	1-2-3くらいに、とはどういうことでしょうか？
	1	音声	第1のステップはプレーヤーがオフサイドポジションにいるかどうかを判断することです。
	1	音声	要点に直接入るため、あるプレーヤーがオフサイドポジションにいるとします。このことがオフサイドとしてフラッグがあげられる十分な理由になるでしょうか？答えはノーです。あるプレーヤーがオフサイドポジションにいるとき、我々は第二番目の条件に合致するかどうかを見極めなければなりません。
	2	音声	2番目の条件はプレーヤーがそのとき、プレーにかかわっていることです。
	3	音声	プレーヤーがそのプレーに関わっているときのみ、第3のステップが適用され、その違反が起こった時にプレーが止められます。
3		表示 & 音声	オフサイドポジションにいるとはどういうことでしょうか。
4	1	表示	プレーヤーはボールより相手ゴールラインに近くありません。 →オフサイドポジションではありません。
	2	表示	プレーヤーはボールよりも相手ゴールラインに近い位置にいます。 →オフサイドポジションです。
	2	音声	プレーヤーがボールおよび後方から2人目の相手選手より相手ゴールラインに近いとき、オフサイドポジションにいることとなります。
	3	表示	プレーヤーがボールおよび後方から2人目の相手選手より相手ゴールラインに近いにいます。 →オフサイドポジションです。
5	1	音声	プレーヤーが後方から2人目の相手選手と同じ位置にいるときはオフサイドポジションではありません。
	1	表示	この例ではプレーヤーが後方から2人目の相手選手と同じ位置にいるのでこれはオフサイドポジションではありません。 →オフサイドポジションではありません。
6	1	音声	プレーヤーが最後方にいる2人の相手選手と同じ位置にいるときはオフサイドポジションではありません。
	1	表示	プレーヤーが最後方にいる2人の相手選手と同じ位置にいるのでこれはオフサイドポジションではありません。
	2	表示	この例ではプレーヤーがボールおよび最後方にいる2人の相手選手よりゴールラインに近いのでオフサイドポジションとなります。 →オフサイドポジションです。
7	1	音声	プレーヤーは(ピッチを半分に分けた場合の)敵陣にいるときのみオフサイドポジションになり得ます。
	1	表示 & 音声	この例ではプレーヤーは自陣にいますので、オフサイドポジションではありません。
8		表示 & 音声	近い、というのはどういうことでしょうか？
9		表示 & 音声	「相手プレーヤーより相手ゴールラインに近い」とは、頭、体または足のどこの部分であってもボールおよび後方から2人目の相手プレーヤーより相手ゴールラインに近いことを意味します。
10	1	表示	この時点ではプレーヤーはボールより相手ゴールラインに近くありません。 →オフサイドポジションではありません。
	2	表示	この時点ではプレーヤーはボールより相手ゴールラインに近い位置にいます。 →オフサイドポジションです。

FIFAによる ルールブック第11条(オフサイド) 解説用CGの和訳

<http://www.fifa.com/flash/lotg/football/en/flash/start.html>

を再生しながらご覧ください。

※個人的に翻訳したものですので、確からしさをお約束するものではありません。

ページ	シーン	表示 /音声	表示されている文章もしくは再生される音声の和訳
11	1	表示	オフサイドポジションかどうかを判断する際、プレーヤーの腕は考慮されません。この時点ではプレーヤーはオフサイドポジションではありません。 →オフサイドポジションではありません。
	2	表示	この時点ではプレーヤーは後方から2人目の相手選手より相手ゴールラインに近い位置にいることになります。 →オフサイドポジションです。
12	1	表示	この例では、プレーヤーは(ハーフウェーラインを境とした)自陣にいるのでオフサイドポジションではありません。 →オフサイドポジションではありません。
	2	表示	この時点ではプレーヤーはボールよりも相手ゴールラインに近い場所にいることになります。 →オフサイドポジションです。
13		表示 & 音声	オフサイドポジションにいることだけでは、オフサイドの反則ではありません。
14		音声	この例のように、オフサイドポジションにいることだけが審判がフリーキックを与える十分な理由ではありません。
15		表示 & 音声	オフサイドポジションにいると判断された選手は、以下の2番目の条件により、そのときのプレーにかかわっているかどうか判断されます。 - プレーに干渉する。または、 - 相手選手に干渉する。または、 - その位置にいることによって利益を得る。
16		表示 & 音声	プレーに干渉するとはどういうことでしょうか。 国際サッカー評議会ではこれを、味方選手がパスした、または味方選手が触れたボールをプレーする、あるいはこれに触れること、と決めています。
17	1	表示	プレーヤーはオフサイドポジションにいますが、そのプレーに干渉していません。
	2	表示	プレーヤーはボールに触れたためそのプレーに干渉したことになります。 →フラッグがあげられ笛が鳴ります。
	3	表示	プレーヤーはオフサイドポジションにいますが、そのプレーに干渉していません。 (ゴール裏からの映像)
18	1	表示	プレーヤーはオフサイドポジションにいますが、そのプレーに関わっていないので罰せられません。
19	1	表示	攻撃側の選手の一人がオフサイドポジションにいて、ボールに向かって走ります。
	2	表示	オンサイドポジションにいる他のチームメイトがこのボールをプレーする可能性がなければ、このプレーヤーはプレーしたりボールに触れたりする前に反則とされることがあります。 →フラッグがあげられます。
20	1	表示	ロングパスですが、ボールはゴールキーパーに向かうか、アウトオブプレーになりそうです
	2	表示	ゴールキックになります。
21	1	表示	ロングパスがでましたが、副審はどの選手がボールをプレーするかを見届けます。
	2	表示	成り行きを見届けます。最終的にプレーに参加した選手はオフサイドポジションにはいなかったため反則とはなりません。
22		表示 & 音声	相手選手に干渉するとはどういうことでしょうか？ 国際サッカー評議会ではこれを、 - 相手選手の視線や動きを妨害し、相手選手がプレーしたりプレーする可能性を妨げること - 審判からみて、身振りや動きで相手選手を惑わしたり、混乱させること と決めています。
23	1	表示	この例では、攻撃側選手がゴールキーパーの視線を遮ぎり、ゴールキーパーがプレーする可能性を妨げています。
24	1	表示	この例では、攻撃側選手はオフサイドポジションにいますが、相手を混乱させたり、プレーする可能性を妨げたりしていません。
25	1	表示	このプレーヤーはオフサイドポジションにいて身ぶりで相手選手を混乱させています。 →フラッグがあげられます。

FIFAによる ルールブック第11条(オフサイド) 解説用CGの和訳

<http://www.fifa.com/flash/lotg/football/en/flash/start.html>

を再生しながらご覧ください。

※個人的に翻訳したものですので、確からしさをお約束するものではありません。

ページ	シーン	表示 /音声	表示されている文章もしくは再生される音声の和訳
26	1	表示	このプレーヤーはオフサイドポジションにいますが、相手を混乱させたり、ボールをプレーすることを妨げたりしていません。
27		表示 & 音声	「その位置にいることによって利益を得る」とはどういうことでしょうか？ 国際サッカー評議会ではこれを、 - オフサイドポジションにいて、ゴールポストやクロスバーからはね返ってきたボールをプレーすること - オフサイドポジションにいて、相手選手からはね返ってきたボールをプレーすることと決めています。
28	1	表示	プレーヤーがオフサイドポジションにいます。
	2	表示	(シュートがゴールポストへ当たったりバウンドをシュートする映像 →フラッグがあげられます。)
29	1	表示	この例ではボールはクロスバーから跳ね返り、オフサイドポジションにいてプレーヤーがそのボールをプレーしているので、彼がそこに居たことにより利益を得ています。(シュートがクロスバーへ当たったりバウンドをシュートする映像 →フラッグがあげられます。)
30	1	表示	この例ではボールはゴールキーパーから跳ね返っています。オフサイドポジションにいたプレーヤーがはそこに居たことにより利益を得ています。 (シュートがゴールキーパーに当たったりバウンドをシュートする映像 →フラッグがあげられます。)
31	1	表示	プレーヤーがオフサイドのポジションにいます。
	2	表示	この状況ではボールは敵選手にあたっています。オフサイドポジションにいたプレーヤーはそこにいたことにより利益を得ています。 (シュートが敵選手に当たり角度が変わってきたボールシュートする映像 →フラッグがあげられます。)
32	1	表示	プレーヤーAはオフサイドポジションに居て、プレーヤーBはオフサイドポジションにはいません。プレーヤーAはプレーに関与していないため、審判は成り行きを見守ります。
	2	表示	プレーヤーAは最終的にプレーに関与しますが、ボールより相手ゴールラインに近い位置にはいませんでしたので、副審は違反とはしません。
33	1	表示	プレーヤーAはオフサイドポジションに居て、プレーヤーBはオフサイドポジションにはいません。
	2	表示	ボールはクロスバーにリバウンドしてプレーヤーBの元へきました。プレーヤーAはオフサイドとして罰せられません。彼はボールに触っていないため、彼のポジションから利益を得ていないためです。
34		表示 & 音声	プレーヤーが以下からボールを直接受けたときはオフサイドの反則ではありません。 - ゴールキック - スローイン - コーナーキック
35	1	表示	この状況ではプレーヤーは直接ボールをゴールキックから受けているのでオフサイドではありません。
36	1	表示	この状況ではプレーヤーは直接ボールをスローインから受けているのでオフサイドではありません。
37	1	表示	この状況ではプレーヤーは直接ボールをコーナーキックから受けているのでオフサイドではありません。